

1 ほ場の準備

(1) 耕起～代かき

- ・ほ場の均平が悪いと播種ムラや出芽ムラが発生し、生育不揃いの原因となります。
耕起から碎土・整地の作業は、移植よりも丁寧に行いましょう。
- ・代かきは、少なめの水で稲株等をしっかりとすき込み、練り過ぎに注意しましょう。
また、農作業の際はできるだけ濁った水を排出しないようご協力をお願いします。

○代かき時期の目安

土質	代かきの目安
砂壤土	播種2～3日前
埴壤土	播種4～5日前

(2) 基肥

- ・基肥はチッソ成分で移植栽培の1割程度の減肥を目安に施用し、倒伏防止に努めましょう。

【コシヒカリの基肥の目安】

(/10a)

	LPss直播コシヒカリ		分施体系の場合 基肥チッソ成分
	施用量	全チッソ成分	
砂壤土	32kg 程度	6.7 kg	3.5 kg
壤質土	30kg 程度	6.3 kg	3.0 kg
粘質土～半湿田	25kg 程度	5.3 kg	2.5 kg

注) 大豆跡田では、倒伏の危険性が高いので、コシヒカリの直播は避けましょう。



2 播種作業

- ・適期に適正な播種量で作業を行い、苗立ちを確保しましょう。

【播種の目安】

播種適期	4月25日～5月10日
播種量(乾籾)	2.5～3.0kg/10a
1m間播種粒数	28～33粒(点播:原則60株/坪設定)
目標苗立本数	40～80本/m ² (12～24本/m)

○生育ステージの目安

	田植・播種日		出穂期			成熟期		
	5/1	15	8/3	7	13	9/11	15	25
移植(コシヒカリ)		○	▲					□
カルパー(コシヒカリ)	○			▲				□
カルパー(てんこもり)	○				▲			□

- ・ほ場の落水は、播種作業が午前中の場合は前日の夕方に、午後の場合は当日の早朝を目安としましょう。
- ・作業中は、確実に覆土(5～10mmの播種深度を確保)されていることを確認し、種子や肥料の落下量が適正か(各ホッパー内の種子や肥料が均等に減っているか等)をチェックしましょう。

3 播種後の水管理

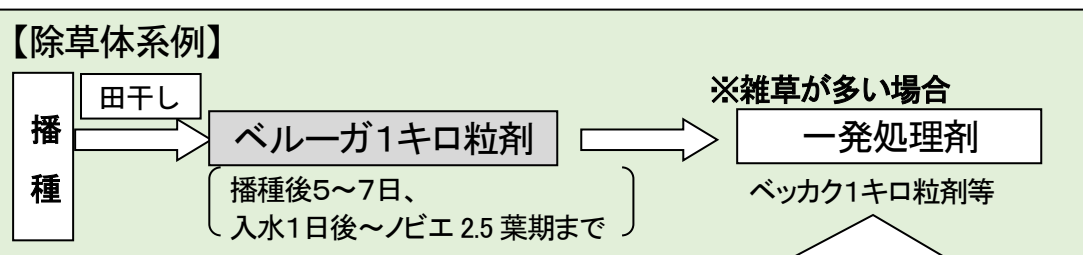
- ・播種同時(当日)に、溝切機で排水溝を掘るなど、播種後の迅速な表面排水に努めましょう。
- ・ほ場の透水性に応じ、土壌の表面に亀裂が入り渡るまで田干し(5～7日程度が目安)を行いましょう(右図)。
※強風が吹くなどの荒天時や、転作跡など透水性の大きいほ場では、乾き過ぎに注意しましょう(過剰な田干しは、雀害や漏水による除草効果の低減につながります)。
- ・田干し後は、水深3cm程度の浅水管理を徹底し、初期分けつ確保に努めましょう。
※深水管理では、苗立率が低下するほか、藻(アオミドロ)が発生することがあります。



足を踏み入れ、2～3cm程度しか沈まなくなった頃が入水時期です。

4 除草剤の散布

- ・除草剤は、使用時期の範囲内で遅れないように散布しましょう。
- ・田面の亀裂が大きい場合は、ほ場に入水した後、減水が落ち着いてから散布しましょう。
- ・散布後5～7日間は湛水状態を保ち、7日間は止水管理としましょう。



雑草が多い場合は、2回目の除草剤を散布しましょう。

5 鳥害・初期害虫対策

- カモ ほ場内に糸やテープ等を張り、侵入を防ぎましょう。飛来した場合は落水しましょう(深水部分を作らない)。
- スズメ 播種後、種籾が露出して見える場合は一度入水して覆土しましょう。飛来した場合は速やかに入水しましょう。
- カラス カラスの飛来が懸念されるほ場では、播種後、ほ場内や周辺に水系を張り、飛来防止に努めましょう。
- 初期害虫 発生初期に、トレボン粒剤(2～3kg/10a)を散布しましょう。

春の農作業安全運動実施中
(3月1日～5月31日)

※農耕車(トラクタ、田植機)等で道路に泥を落とさないよう注意しましょう。
やむを得ず道路を汚してしまった場合には、泥の撤去をお願いいたします。

1. 種子・ほ場の準備

(1) 種子

- ・コーティング後の種子は、発熱による発芽率の低下防止のため、すぐに苗箱等に薄く広げて十分に乾燥させた後に保管しましょう。また、播種前に必ず種子の発芽率を確認しましょう（発芽率の目安：90%以上）。

(2) 耕起～代かき

- ・ほ場の均平が悪いと播種ムラが発生しやすくなります。耕起から碎土・整地の作業は移植より丁寧に行いましょう。
- ・代かきは、少なめの水で稲株等をしっかりとすき込み、ねり過ぎに注意しましょう。また、農作業の際はできるだけ濁った水を排出しないようご協力をお願いします。

(3) 基肥

- ・基肥は、チッソ成分で移植栽培より1.0～1.5kg/10aの減肥を目安に施用し、倒伏防止に努めましょう。

注) 鉄コーティング直播は表面播種なので、他の播種方式より倒伏に弱い傾向があります。倒伏防止のため、土壌条件や前作物を考慮して、施用量を調整しましょう。
(大豆跡田では、コシヒカリの直播は避けましょう。)

【コシヒカリの基肥の目安】

(/10a)

	LPss直播コシヒカリ	
	施用量	全チッソ成分
砂壤土	30～32kg 程度	6.3～6.7 kg
壤質土	28～30kg 程度	5.9～6.3 kg
粘質土～半湿田	23～25kg 程度	4.8～5.3 kg

2. 播種作業

- ・適期に適正な播種量で作業を行い、苗立ちを確保しましょう。

【播種の目安】

播種適期	4月25日～5月10日
播種量(乾籾)	2.5～3.0kg/10a
1m間播種粒数	28～33粒(点播:原則60株/坪設定)
目標苗立本数	60本/m ² (18本/m)

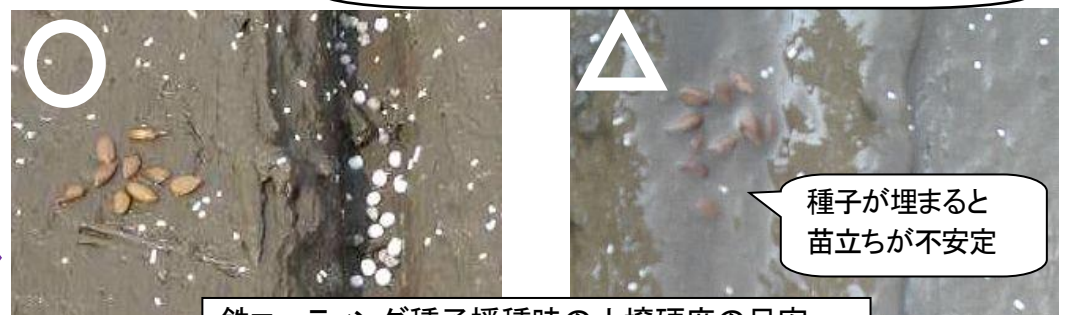
○生育ステージの目安

	田植・播種日			出穂期			成熟期		
	4/28	5/1	15	8/3	10	14	9/11	21	27
移植(コシヒカリ)		○	▲						□
鉄(コシヒカリ)	○			▲					□
鉄(てんこもり)	○			▲					□

鉄コーティング直播は、播種が遅くなると刈取時期が遅くなるので注意しましょう。

- ・代かき後、自然落水した状態で播種しましょう。
- ・播種時のほ場の硬さは、土壌がある程度締まった状態(種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度) としましょう。

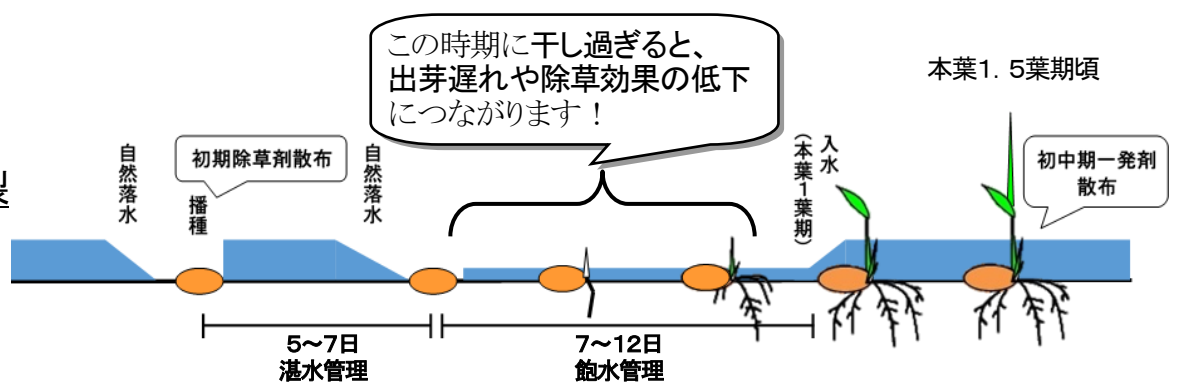
- 種子が見える
- 施肥溝が残り、肥料の粒が見える



鉄コーティング種子播種時の土壌硬度の目安

3. 播種後の水管理

- ・除草剤の効果発現のため、播種後5～7日間は水深5cm程度の湛水管理を行いましょう。
- ・その後は、根を土中に貫入させるため、土に亀裂が入らない程度の飽水管理をしましょう。
(土壌の乾きすぎに注意)
- ・播種後、高温で雨が少ない場合などに表層はく離(表土が膜状に浮き上がる現象)が発生したら、田干し等で対応しましょう。

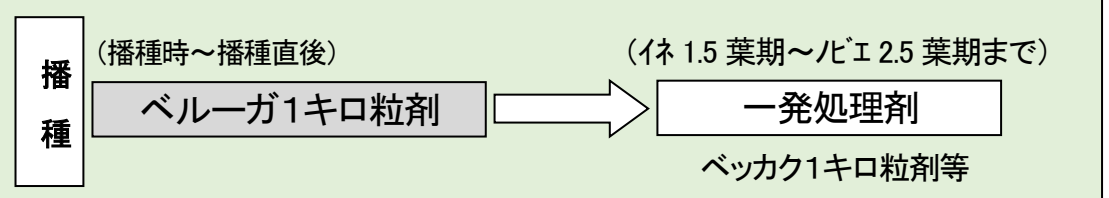


※スズメが飛来した時は、ただちに湛水して被害を防止しましょう。
※初期害虫の発生が懸念される場合、出芽揃い後の入水時にトレボン粒剤(2～3kg/10a)を散布しましょう。

4. 除草剤の散布

- ・鉄コーティング直播では出芽苗立ちまで時間がかかるので「初期剤＋一発処理剤」の体系で除草しましょう。
- ・播種同時または播種直後に除草剤を散布するとともに、稲の1.5葉期頃に2回目の除草剤を速やかに散布して、雑草防除を徹底しましょう。

【除草体系例】



春の農作業安全運動実施中
(3月1日～5月31日)

※農耕車(トラクタ、田植機)等で道路に泥を落とさないよう注意しましょう。
やむを得ず道路を汚してしまった場合には、泥の撤去をお願いいたします。